

大阪市立住まい情報センター

令和6年度 年間事業報告書

指定管理者

大阪市住宅供給公社・アクティオ共同事業体

目 次

○大阪市立住まい情報センター 概要	・ ・ ・ 1
1. 指定管理業務の実施状況	・ ・ ・ 3
2. 各事業の実施報告	
(1) 相談事業	・ ・ ・ 7
(2) 普及・啓発事業	・ ・ ・ 10
(3) 広報事業	・ ・ ・ 14
(4) ライブラリー事業	・ ・ ・ 18
(5) ホール・研修室等の運営事業	・ ・ ・ 20
(6) 展示事業	・ ・ ・ 21
(7) 住まい・まちづくりネットワーク事業	・ ・ ・ 29
3. 利用者モニタリング等の実施状況	・ ・ ・ 32
4. 自主事業	・ ・ ・ 39
5. 収支決算状況	・ ・ ・ 40

大阪市立住まい情報センター 概要

■施設概要

施設名称	大阪市立住まい情報センター
所在地	大阪市北区天神橋6丁目4番20号
施設規模	敷地面積：3,392 m ² （うち大阪市部分2,113 m ² ） 構造規模：鉄骨鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造 地下1階／地上10階 延床面積：5,195 m ² （全体19,560 m ² のうち、3階の一部、4階、5階の一部、7階の一部、8～10階）

■施設の構成

① 住情報プラザ（4階）

- ・相談カウンター…………… 住まいに関する一般的な相談・情報提供
- ・相談ブース…………… 専門家相談（法律、建築・リフォーム、資金計画）、連携機関による定期相談（建築、税務）
- ・ライブラリー…………… 住まい・建築・大阪に関する図書・絵本などを配架
- ・来館者用パソコン端末コーナー… 来館者が、住まいに関する情報などを検索・収集できるパソコン端末を設置

② ホール（3階）・研修室（5階）……

住まいに関するセミナーなど多彩なイベントを実施
市民や各種団体等への貸室利用
ホールの最大収容人員……300人
研修室の最大収容人員……70人

③ 住まいのミュージアム（8～10階）…

大阪の住まいや人々の暮らしの歴史を再現

『大阪くらしの今昔館』

同一建物内に、大阪市営住宅募集センター、大阪市住宅供給公社、大阪市立男女共同参画センター子育て活動支援館、三井住友銀行がある。

■指定管理者

団 体 名	大阪市住宅供給公社・アクティオ共同事業体
主たる事務所の所在地	大阪市北区天神橋6丁目4番20号
代 表 者	理事長 田中義浩（令和7年3月31日現在） （担当者 大阪市立住まい情報センター 所長 正垣豊治） （06-6242-1160）
指 定 期 間	令和6年4月1日から令和11年3月31日までの5年間

■施設の開館時間等の実績

○施設の開館日数

	住情報プラザ	住まいのミュージアム 『大阪くらしの今昔館』
開館日数	306 日	301 日
うち臨時開館日	0 日	15 日
うち夜間等の開館日	0 日	0 日
臨時休館日	0 日	8 日※

※展示替えのため4月8日～4月12日まで4日間臨時休館（休館日除く）、9月2日～9月6日まで4日間臨時休館（休館日除く）した。

○住情報プラザの開館時間等

開館時間

	住情報プラザ	ホール・研修室
平日・土曜日	9:00～19:00	9:00～21:00
日曜日・休祝日	10:00～17:00	9:30～17:00

休 館 日 火曜日（休祝日の場合は翌日）

休祝日の翌日（日曜日、月曜日の場合を除く）

年末年始（12月29日～1月3日）

○住まいのミュージアム『大阪くらしの今昔館』の開館時間等

開館時間 10:00～17:00（入館は16:30まで）

休 館 日 火曜日

年末年始（12月29日～1月3日）

展示替え期間（4月8日～4月12日、9月2日～9月6日）

入 場 料 一般 600 円 団体 500 円（20人以上）

高・大学生 300 円 団体 200 円（20人以上）

※中学生以下、障がい者手帳等をお持ちの方（介護者1名を含む）、市内居住の65歳以上の方は無料

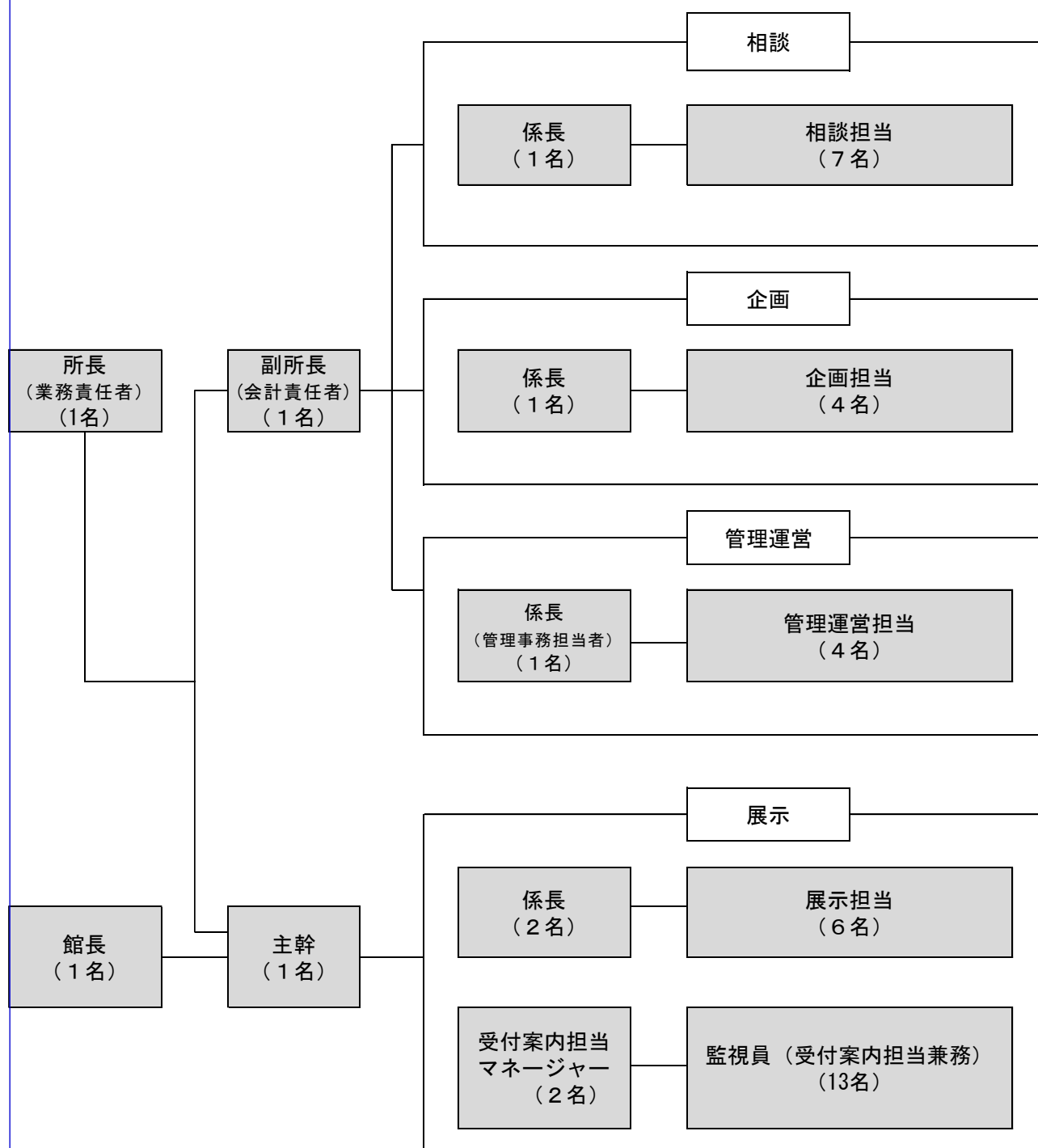
1. 指定管理業務の実施状況

(1) 施設の運営体制

○職員配置状況

- ・ 公の施設の管理者として、施設の設置目的や事業内容を十分に理解して運営を行うとともに、日常業務で得た情報や集計・統計データ、調査・研究の成果等を大阪市の住宅政策の企画・立案に反映させるという重要な役割を担うことができ得る職員を配置した。

<組織図 令和7年3月31日>



【障がい者雇用状況】（令和6年6月1日現在）

- ・大阪市住宅供給公社

雇用人数 262名 うち障がい者数 10名 （雇用率 3.82%）

- ・アクティオ株式会社

雇用人数 1291.5名 うち障がい者数 37.5名 （雇用率 2.90%）

※短時間労働者は0.5人として計算

○職員の勤務ローテーション

- ・住情報プラザ、大阪くらしの今昔館それぞれの開館時間や、ホール・研修室の開館時間が異なるが、ローテーション勤務とし、いずれの開館時間中どの時間帯でもサービスの質と安全性を確保した。
- ・毎月1回は全員出勤日を設け、ミーティング等による情報共有を行うことで、担当者間の連携を深め、円滑な事業推進や課題の解決に向けた業務改善を図った。

○研修の実施状況

- ・障害のある方に対する合理的配慮に関する研修を全職員対象に実施した。
- ・個人情報保護の研修や、人権問題等に関する研修を全職員対象に実施した。
- ・災害や人命救助の対応を的確に行えるよう、消防訓練や普通救命講習を実施した。
- ・センター事業で必要な、専門的な知識や最新の情報を得るため、他団体が主催する住まい関連のセミナー、講座等にも参加し、入手した資料については、ミーティング等を通じて組織内で情報の共有化を図った。
- ・大阪くらしの今昔館の案内・受付員については、新人研修、スキルアップ研修、接客・対応研修、人権研修等を実施した。

（2）維持管理に係る事項等

○日常点検、事故防止対策等

- ・事故や故障等を未然に防ぐため、職員による施設内の巡回に加え、開館前、閉館後の住情報プラザや大阪くらしの今昔館の設備等の点検を実施した。
- ・ホール、研修室等については、利用前に設備等の動作確認を行い、利用後には設備の作動不良や備品等に汚損などが無いか、毎回点検した。
- ・万一の場合に備えるため、大阪市が加入している施設賠償責任保険に加えて、レジャー・サービス施設費用保険や業務遂行に起因する法律上の賠償責任の補償を対象とした施設所有管理者賠償責任保険に加入している。

【維持管理業務の実施項目】

- ① 貸室のＡＶ設備の保守点検等（年１回実施）
３階ホール・５階研修室ＡＶ設備保守点検
- ② 常設展示室修復業務（年１回実施）
常設展示室 町家、道路等その他の補修及び清掃
- ③ 展示室の蒸気加湿器保守点検業務（年２回実施）
配線・基盤等の点検、シリンダー等の清掃及び交換
- ④ 展示機器の保守点検業務（年１回実施）
機器の各種動作確認、消耗品の劣化状況確認及び交換
- ⑤ 特別収蔵庫（年２回）・収蔵庫・展示室（年１回実施）くん蒸業務
特別収蔵庫・第１収蔵庫・第２収蔵庫・収蔵庫前室・９階常設展示室の密封くん蒸法による害虫・カビの駆除
- ⑥ 管球類、消耗品などの交換・補充（随時）
蛍光灯や展示ケース内の調湿保存剤など交換、補充

○危機管理体制

ア．火災への対策

- ・当建物全体の入居者とともに、消防訓練を２回実施した。
- ・火災時を想定した役割分担を作成し、対応マニュアル、避難経路図、及び緊急連絡系統図を職員に配付・周知し体制を整えた。

イ．地震への対策

- ・住情報プラザおよび大阪くらしの今昔館に、最寄りの避難所までの案内図を掲示している。
- ・「地震時における住まい情報センター職員の行動マニュアル」に基づき、非常時に迅速に行動できる体制としている。

ウ．暴風警報発令時の対応

- ・暴風警報発令時および台風接近時の対応については、「暴風警報発令に伴う事業の休止等の取り扱いについて」に基づき、セミナー・シンポジウムの中止や、大阪くらしの今昔館の臨時休館の判断を行い、来館者やセミナー参加予定者に周知した。

エ．その他緊急時の対応

- ・住情報プラザ及び大阪くらしの今昔館にＡＥＤが設置されており、事故発生時における職員の緊急連絡網および対応マニュアル、セミナー開催時における緊急対応マニュアルを作成し、職員に配付・周知した。

- ・大阪くらしの今昔館では、火災や地震等の災害時に加え、不審者・不審物への対応や急病人・負傷者への対応等について、緊急時に安全かつ迅速に対応するため「緊急対応ポケットメモ」を作成し、各職員に配付した。

○設備等の更新

- ・8階窓口発券機等を更新しました。
- ・8階発券カウンターの窓口拡張工事を実施しました。
- ・9階展示室の休憩コーナーの椅子を更新しました。

(3) 施設の有効利用

○住情報プラザを活用した情報提供

- ・大阪市の施策やセミナー等関連のテーマでパネル展を10回開催した。
- ・住情報プラザのスペースを活用し、住まいの体験コーナーや24区情報コーナー等の各種情報提供コーナーを設置し、行政や専門家団体等が発行したリーフレット等を中心に配架した。
- ・また、約550種類の資料等について、目的別に分類して分かりやすく配架した。
- ・出入り口付近に設置した「有料パンフレットラック」について、地元商店街で実施するイベント等のお知らせは無料で配架するよう取り扱い、柔軟な情報提供の場として活用できた。

2. 各事業の実施報告

(1) 相談事業

① 実施状況・実績

- ・住まいの一般相談では、公的賃貸住宅の募集情報、住まい探しや住み替えの相談、住まいの売買、建築、賃貸借、リフォーム、住まいの税金、住宅ローン、相隣トラブル、分譲マンション管理など、住まいに関するさまざまな相談に相談員が窓口および電話で対応した。
- ・公的賃貸住宅や民間賃貸住宅の情報はじめ、賃貸借・売買等に関する情報、建築・リフォーム等に関する技術的な情報、分譲マンション管理特有の課題に関する情報など住まいに関する情報提供を行った。
- ・専門家による対応が必要と考えられる相談については、専門家相談（法律、建築・リフォーム、資金計画、分譲マンション管理）で対応するほか、他の適切な機関等を紹介した。

○住まいの一般相談の実施

- ・公平かつ中立的な立場で、住まいに関する様々な相談に相談員が対応した。相談を実施する際は、まず相談者の話をお聴きして、問題解決に有効な情報提供や解決方法の提案、専門家相談の活用により支援を行った。なお、外国人には電話を利用した三者間通話による通訳を活用し、聴覚障がい者には筆談で対応した。
- ・相談の類型としては、公的賃貸住宅への住み替え相談、賃貸借の修繕、家賃値上げや原状回復によるトラブル、売買の一般的注意事項、建築リフォーム、敷地境界や騒音などの相隣トラブルに関すること、補助金に関する情報提供などが多くを占めた。

住まいの一般相談件数（情報提供含む）

来訪	電話	計
16,899	13,949	30,848

○住まいの専門家相談の実施

- ・専門性が高く、高度な相談については、弁護士、建築士、ファイナンシャル・プランナー、マンション管理士による個別相談を実施した。
- ・専門家相談は、一般相談で事前に相談員が相談内容を聴き取って整理し、専門家相談の流れや持参資料の案内を行った。また、専門家には相談員から相談内容の概略を伝え、より有意義な相談を行えるように支援した。

- 住まいの法律相談 毎週 土曜日に実施（30 分/組×6 組）
- 建築・リフォーム相談 隔週 土曜日に実施（40 分/組×4 組）
- 住まいの資金計画相談 月 1 回 土曜日に実施（40 分/組×2 組）
- 分譲マンション相談
 - ・ 法律相談 : 月 1 回 日曜日に実施（45 分/組×3 組）
 - ・ 管理一般相談: 毎週 木曜日に実施（45 分/組×4 組）
- マンション管理支援機構と共催の相談会
 - ・ 法律相談 : 年 2 回（45 分/組×6 組）
 - ・ 技術相談 : 年 2 回（45 分/組×3 組）
 - ・ マンション管理一般相談 : 年 2 回（45 分/組×3 組）

住まいの専門家相談件数

法律	建築・ リフォーム	資金計画	マンション 管理	計
265	42	20	194	521

- ・ 関連団体との連携による専門家相談として、近畿税理士会による税務相談、公益社団法人大阪府建築士会による日曜建築相談を実施した。
- ・ 定例的に実施する法律相談に加えて、窓口に来ることが困難である場合や夜間にしか相談する時間が取れないなどの市民のニーズに応えるため、オンラインによるナイトー法律相談（住まいの法律相談）を 1 回実施した。

○相談データの活用

- ・ 対応した相談については、住まい情報センター管理運営システム内の「相談対応サブシステム」に入力してデータベース化し、内容を定期的に大阪市に報告した。
- ・ 相談データの分析から、セミナー・イベント等のテーマ設定や企画、資料展示、ライブラリー図書の選定等において、相談担当としての助言を行うなど、担当者間で積極的な意見交換を行った。

○相談対応の充実

- ・ 分譲マンション管理に関する相談で、専門的な知識が必要な相談事項については、大阪市マンション管理支援機構を構成する専門家団体からのアドバイスを参考にした。
- ・ 住まい関連の相談経験が豊富なアドバイザーを招き、月 1 回程度の定期的な勉強会を開催するとともに、相談対応のノウハウを蓄積した相談員向けマニュアルの内容を拡充し、相談対応の効率化と市民サービスの向上を図った。

- ・常に住まいに関する最新情報を収集し共有するとともに、相談員間での定期的な情報交換や、勉強会等を実施し、相談対応技能の向上を図り、高度な相談に対応できるよう努めた。

○住まい・まちづくり教育への取り組み

- ・「あかりのあるおうち」（1/100 サイズの白い模型の内側天井部分に色を塗ることで、光の反射による室内雰囲気の違いを楽しむ。）等をテーマに、想像力や考える力を養う子ども向けの住教育を実施し、その内容を、Instagramを用いて情報発信した。8/10～9/23 には夏休み特別企画として「とんがり帽子のおうち 3」を実施。提供いただいた廃棄予定のクッションフロアや壁紙、カーテン生地等の材料を利用して、住宅に使われる身近な材料に触れることで住まいへの関心をもってもらい、楽しく学びながらおうち作りをする機会を提供した。10/13 のライブラリー主催「親子で楽しむ♪おはなし会&みんなでおうちをつくろう！」イベントにおいて企画担当と連携し、おうち作り体験の機会を提供した。
- ・トラブル予防のための啓発掲示を実施。「結露に注意」「防災」をテーマに A4 サイズのポスターを作成。1 階ロンドラの展示スペースと住教育ワークショップコーナーに掲示した。

② 相談事業におけるサービス向上・利用促進の取り組み

○相談窓口のネットワークの構築

- ・大阪市・神戸市・京都市の三都連携事業会議において、「災害時の支援制度、応急危険度判定等」をテーマとする勉強会に参加した。
- ・都市整備局安心居住課主催の「居住支援連携の促進に向けた交流会」に出席し、当センターの相談事業について紹介した。
- ・大阪簡易裁判所による住まい情報センター相談員のための裁判所見学会に参加し、少額訴訟及び民事調停制度のレクチャーを受講し、裁判官等との座談会にて意見交換を行った。
- ・区役所の自立支援担当者と住宅要配慮者に対する住まい探しや居住支援について意見交換を行った。

○資料の充実と探しやすさ、わかりやすさへの工夫

- ・相談担当は直接来館者と接するため、館内の催しを的確に案内できるように努めた。
- ・相談者が情報にたどり着きやすくするために、センター内の約 550 種類の資料を、目的別コーナーに分類し、案内表示を行った。

- ・「住まいの子育てコーナー」では、大阪市子育て安心マンション認定制度を始めとする大阪市の子育て世帯向け住宅支援制度のほか、住宅金融支援機構のフラット35地域連携型や、国民生活センター発行の子どもが巻き込まれやすいくらしの危険の啓発リーフレット、大阪市こども相談センターリーフレットなどの資料を配架した。
- ・「高齢者情報コーナー」では、サービス付き高齢者向け住宅情報や、セーフティネット住宅登録情報、居住支援法人情報などの資料を配架した。
- ・ミュージアム担当と連携し、住情報プラザ内に「大阪くらしの今昔館コーナー」を設け、来館者に大阪くらしの今昔館を紹介した。
- ・「防災コーナー」では、防災マップ、ハザードマップをはじめ、防災関連資料を配架し、市民への啓発に努めた。
- ・国家資格（宅地建物取引士、マンション管理士、管理業務主任者）試験申込書を配布した。
- ・「おおさか・あんじゅ・ネット」にある、基本的なアドバイスと役立つリンク先等を取りまとめたコンテンツ「相談員からのアドバイス」、「知っておきたい住まいの情報」を、収集したデータをもとに更新した。

○公営住宅募集案内の充実

- ・市営住宅募集センター指定管理者による勉強会に参加し、定期募集の応募への相談や、申込書の配布等の情報提供に協力した。
- ・住情報プラザに申込書記載コーナーを設け、ゆっくり座って応募団地の検討や申込書の記入をしていただけるように配慮した。申込に関する相談対応や、最寄り駅からのアクセスや周辺施設がすぐにわかる市営住宅団地分布図を独自に作成し情報提供を行うなど、市民サービスの向上に努めた。
- ・市営住宅の定期募集時期以外についても、入居希望者の相談に応じ、定期募集や随時募集受付の窓口を案内するなど、適切に対応した。

（２）普及・啓発事業

① 実施状況・実績

- ・子育て層や若者、シニアまで幅広い層をターゲットに、住まいづくり・住生活のノウハウから住まいの歴史・文化まで、さまざまなテーマで各種セミナーやワークショップの開催、パネル展示等を行った。
- ・相談事業に寄せられた相談内容を踏まえたテーマ設定や、展示事業と連携した魅力的なイベント開催など、市民ニーズを捉えたセミナー内容の充実に努めた。
- ・聴覚に障がいのある方への配慮のため、手話通訳に対応できる体制を確保した。

- ・セミナー後に実施したアンケートでは、セミナー参加者の満足度が98%を超え、質の高いセミナーが実施できた。

○令和6年度セミナー実績：総開催回数 66 回 参加者総数 3,335 人

事業	実施回数	定員		申込者数	参加者数		
		会場	オンライン		会場	オンライン	合計
住まいの基礎知識セミナー	21	1050	2100	1364	452	426	878
住まいと暮らしのワークショップ	3	90	—	211	79	—	79
シンポジウム	1	180	200	47	15	9	24
ブックトークサロン	1	100	100	166	96	19	115
おはなし会	2	20	—	23	17	—	17
リサイクルブックフェア	1	100	—	178	89	—	89
今昔館関連イベント	5	285	—	—	485	—	485
タイアップ事業 (交流会を含む)	22	1210	1100	2080	937	465	1402
共催事業	3	100	100	—	69	40	109
出前講座	5	—	—	—	120	—	120
ハウジングデザイン賞関連イベント	2	20	—	39	17	—	17
合計	66	3155	3600	4108	2376	959	3335

○令和6年度に実施した主なセミナー・イベント

住まいの基礎知識セミナー

テーマ：連続講座「住まいを購入する」

【第1回】住まいのお金編①「資金計画と住宅ローン」

【第2回】住まい探し編「はじめての住宅購入～自分に合った住まい探し～」

【第3回】戸建住宅編「戸建住宅を購入する」

【第4回】住まいの設計編「住まいをつくる／リノベーションする」

【第5回】分譲マンション編①「分譲マンションを購入する」

【第6回】分譲マンション編②「分譲マンションリフォーム前に知っておきたいマンション管理」

【第7回】住まいの省エネ編「省エネな住まいづくり」

【第8回】住まいの契約編①「重要事項説明書」

【第9回】住まいの契約編②「契約書」

【第10回】住まいのお金編②「税金と確定申告」

(計10回実施)

参加者数：(会場) 230人、(オンライン) 238人

はじめて住宅を購入しようとしている方を対象とした連続講座、住宅購入に必要な知識を、テーマを分けてシリーズ化して実施した。

住まいと暮らしのワークショップ

テーマ：親と子の都市と建築教室 2024「まちつくタイムトラベル～〇年後のまちをつくらう～」(計2回)

参加者数：1回目 25人、2回目 26人

夏休み期間中、小学生を対象に、日本建築学会と大阪府建築士会との共催で、若手建築士や大学生などと一緒に、ダンボールを使って“まち”をつくり、ものづくりの楽しさを学ぶワークショップを実施した。

第37回大阪市ハウジングデザイン賞「受賞住宅見学会」

見学場所：①Brillia Tower 堂島、②カーサ・リベラ 彫刻のある家

参加者数：①8人、②9人

第37回ハウジングデザイン賞を受賞した2件の住宅の見学会を開催し、現地では設計者や入居者等による解説を行った。

チャレンジタイアップ事業

テーマ：もう迷わないリフォーム事業者選び～住宅の省エネリフォームと耐震～

参加者数：(会場) 76人、(オンライン) 40人

大阪府住宅リフォームマイスター制度の紹介から、リフォーム事業者の見分け方のポイント、省エネ・耐震改修に関する施工事例や補助金の紹介を行った。

シンポジウム

テーマ：被災後の生活再建と住情報

参加者数：(会場) 46人、(オンライン) 15人

一般社団法人日本建築学会住まい・まちづくり支援建築会議 支援事業部会 関西支援事業実行委員会、京都市住宅供給公社 京安心すまいセンター、(公財)京都市景観・まちづくりセンター、神戸市すまいの安心支援センター(すまいるネット)との共催により、被災者の生活再建支援手法のモデル化に取り組んでいる菅野大阪公立大学准教授による基調講演と、住まい情報センターの事業から「近代大阪と災害」「災害と住まいの相談」「大阪すまいラボ」についての紹介、大阪すまいラボ防災プロジェクトのメンバーと登壇者でトークセッションを実施した。

○パネル展等による情報提供

- ・大阪市の施策やセミナー関連のテーマを主としたパネル展を 10 回開催したほか、大阪 24 区の情報や地域魅力情報、イベント紹介など住情報プラザを訪れる方に広く情報提供した。

実施期間	パネル展示タイトル
4 月 1 日 ～4 月 29 日	住むまち大阪スタイル人
5 月 1 日～6 月 20 日	第 37 回大阪市ハウジングデザイン賞推薦募集
6 月 21 日～7 月 31 日	災害に備えて住まいのためにできること
8 月 1 日 ～8 月 31 日	まちをつくろう！
9 月 1 日 ～9 月 30 日	防災月間パネル展「自然災害に備えよう」
10 月 2 日～10 月 31 日	【住生活月間】住まいの事例展～新築・リフォーム・リノベーション
11 月 1 日～11 月 18 日	第 14 回オープンナガヤ大阪 2024
12 月 1 日～1 月 20 日	あんじゅ 100 号発刊記念
1 月 22 日～2 月 16 日	やるやん！大阪弁～こんな所でも使ってもらえます
2 月 17 日～3 月 31 日	大阪市ハウジングデザイン賞受賞住宅

② 普及・啓発事業におけるサービス向上・利用促進の取り組み

○市民ニーズを踏まえた事業の実施

- ・セミナー開催時に参加者アンケートを行い、満足度や希望テーマを把握し、以降のセミナーの企画立案や会場運営の参考とした。
- ・センターに寄せられた相談内容の分析・課題抽出をふまえ、「タイアップ+（プラス）事業」の募集テーマに「防災」や「空き家対策」、「居住支援・住宅セーフティネット」、「省エネ・脱炭素」などを設定することで、利用者が求めるテーマを反映したセミナーを実施できた。

○多彩な広報活動の実施

- ・区役所等の公共施設への配架依頼や、Osaka Metro 42 駅に設置された広報掲示板へのポスター掲出とチラシの配架を定期的に行い、幅広く市民の方々に広報することでセミナーやイベントの周知を図った。
- ・広報期間を 2 ヶ月以上確保すると同時に、セミナー内容と関連する公共施設へチラシ設置を依頼するなど、参加者増につながる取り組みを行った。

- ・新聞・報道関係者に対しプレスリリースを行い、セミナー等の周知を図った。
- ・ウェブサイト「おおさか・あんじゅ・ネット」によるイベントの告知及び参加申込の受付、メールによる参加証の送付など、インターネットを活用した広報により、市民の利便性の向上を図った。
- ・新着イベント情報を、メールマガジンを活用して配信し、登録者数は4,624人となった。メールマガジンは、いち早くイベント情報が届き、受信メールから簡単にイベントへの申し込みができるもので、会員から好評を得ている。

参加申込フォーム利用によるイベント申込者数

期間	参加申込者 総数 (A)	フォームからの 申込者数 (B)	B/A
令和6年度	4,735人	3,671人※	83.9%

※「おおさか・あんじゅ・ネット」の参加申込フォーム利用による参加申込者数

○共催事業の積極的な実施

- ・他団体等との連携・共催事業を実施しており、それぞれの強みや良さを活かしつつ、より効果的な普及啓発やセンターのPRを行っている。
- ・オープンナガヤ大阪2024実行委員会、大阪公立大学長屋保全研究会と共催で、大阪の長屋の活用事例を紹介するイベント「第14回 オープンナガヤ大阪2024」を開催した。住情報プラザでのパネル展示やフライヤーを配架するなど広報面での協力を行った。

○他施設等との連携

- ・大阪公立大学文学部との共催事業として、シンポジウム「地域で文化を活かす、芸術を活かすことの可能性を探る！」を開催した。地域における、音楽をはじめとした文化資源を活かしたアートイベントやアートワークショップ、ボランティアガイドなど、多様なジャンルの文化・芸術を活かした活動を実践・研究している研究プロジェクトのメンバーをパネリストとして、各自の実践活動の概要やその意義について話題提供し、地域で文化を活かすこととはどういうことか、参加している人々や地域社会にとってどのような効果をもたらすのか、その幅広い可能性について語り合った。

(3) 広報事業

① 実施状況・実績

- ・住まいのガイドブック「あんじゅ」の発行や、ウェブサイト「おおさか・あんじゅ・ネット」の運営により、大阪市の住宅施策の案内や、居住地としての大阪市の魅力紹介、住まい・暮らしに役立つ記事を掲載した。

- ・「あんじゅ」は、取材した情報を発信する特集4ページ、専門家や著名人に寄稿を依頼するトピックス、コラム、住宅政策、大阪市立住まい情報センターの情報提供、今昔館ニュース（裏表紙含む）で構成した。
- ・令和7年1月発行の「あんじゅ」101号では、大阪市・神戸市・京都市の三都市の公的な住情報センターによる三都連携事業として行ったシンポジウム「被災後の生活再建と住情報」の特集を組み、被災者の生活再建支援手法のモデル化に取り組んでいる菅野大阪公立大学准教授による基調講演と、住まい情報センターの事業から「近代大阪と災害」「災害と住まいの相談」「大阪すまいラボ」についての紹介、大阪すまいラボ防災プロジェクトのメンバーと登壇者によるトークセッションの内容を記事として掲載し、情報発信を行った。
- ・センター事業の広報については、Osaka Metro 駅や公共施設での広報誌・案内チラシの配架や、当建物の掲示板等の活用、ウェブサイトからの情報提供など、幅広く周知を行った。

○大阪市住まいのガイドブック「あんじゅ」の発行

- ・「あんじゅ」の企画にあたっては、事業企画会議でアドバイザーより特集のテーマや掲載内容について意見やアドバイスをいただき、大阪市の担当部署、制作スタッフと共に編集会議を開催し、企画を行った。
- ・秋号はあんじゅ発行100号を記念し、これまでの99号をふりかえり、「住まう」「暮らす」「愉しむ」の3つの切り口から「大阪に住まう」ことに着目した特集ページを増量するなど、内容を充実させた。
- ・ウェブサイト「おおさか・あんじゅ・ネット」に掲載する際には、紙面では掲載できなかった写真や情報を追加し、充実を図った。

発行回数	発行部数	送付先
年4回 (各16ページ)	各1.5万部	市民利用施設、大学、博物館、大阪府下図書館等、 住むまち大阪スタイル人等

●第99号（令和6年7月発行）

特集：住まいの耐震化を考えよう

大阪くらしの今昔館 news：企画展「レトロ・ロマン・モダン、乙女のくらし」
—江戸時代の化粧道具— 牡丹唐草蒔絵鏡台

トピックス：「居住支援法人」をご存じですか？

コラム：おひとりさまと住まい 第1回 シニアライフに備える住まいとは。

●第100号（令和6年10月発行）

100号記念特集：大阪に住まう

大阪くらしの今昔館 news：調査資料の保存と活用について

コラム：時の記念日展示イベント「VIVA!!時の記念日」を開催しました

新収蔵品紹介 秋の行楽 松茸狩り

●第101号（令和7年1月発行）

特集：被災後の生活再建と住情報 令和6年度三都連携事業シンポジウムより

大阪くらしの今昔館 news：企画展「布のすがた—いまむかし」

染織作家、それぞれの視点

収蔵品紹介 福を招く正月の掛け軸 「七福集合図」

トピックス：誌面セミナー 住まいの維持管理 戸建住宅のメンテナンス

●第 102 号（令和 7 年 3 月発行）

特集：1970 年大阪万博が夢見た 都市の住まい

大阪くらしの今昔館 news：「浪華名所図屏風」 錦絵でみる近代の大阪「心斎橋鉄橋図」

コラム：「おひとりさまと住まい 第 2 回」おひとりさま女性と住まい

トピックス：誌面セミナー 住まいの維持管理 空き家の管理・利活用

○ウェブサイトの効果的な運用

- ・大阪くらしの今昔館ウェブサイトでは、一般向けとしてカレンダーにも展示コンテンツを掲示、メルマガ登録者へは企画展情報を自動配信、町家衆へのお知らせをボランティア登録したアドレスに一斉配信するなどの広報を実施した。
- ・X（エックス）、Facebook（フェイスブック）、Instagram（インスタグラム）なども活用し、イベントやライブラリーの案内や報告をするなど、幅広く効果的な情報発信を行った。
- ・タイアップ事業やライブラリー事業で実施したセミナーについて、Facebook で掲載・報告し、「おおさか・あんじゅ・ネット」へ誘導するなど、情報発信ツール間の連携を図った。

○センター事業の発信

- ・Osaka Metro 42 駅において、広報ラックへの「あんじゅ」、セミナーチラシの配架、大阪くらしの今昔館のポスター掲示・チラシ配架を行った。なお、セミナーチラシの裏面に相談事業・貸室等の案内を掲載し、広報に努めた。

【Osaka Metro 駅広告】

- ・Osaka Metro 「天神橋筋六丁目」駅構内 2 箇所の電照広告枠に住まい情報センターの広告を掲示した。
- ・Osaka Metro 42 駅構内の掲示板でポスターを掲示し、セミナーや企画展のチラシを配架
- ・住まい情報センターの最寄駅である J R 「天満」駅の協力のもと、駅構内において大阪くらしの今昔館の案内ポスターを掲示していただき、PR 活動に努めた。
- ・住まい情報センター地下 1 階・1 階の電子掲示板や地下 1 階出入口、1 階出入口、3 階ホール、8 階ミュージアムに設置されている掲示板等を活用し、セミナーやイベントの開催時期や内容を取りまとめた一覧表を掲示し、わかりやすい広報に努めた。
- ・住まい情報センター 1 階の公開空地（ロトンダ内）に設置された展示ケース、ポスター掲示板を活用してセミナー・イベント情報や折々の企画展やイベントに合わせた展示により施設の PR を積極的に行い、通行する人々にセンターをアピールした。

- ・セミナー等については、広く市民の方々に参加いただけるよう、市民利用施設でのチラシ・リーフレット設置や市の広報紙等への掲載に加えて、ウェブサイト「おおさか・あんじゅ・ネット」を活用し広く情報発信を行った。
- ・住まい情報センター4階に、デジタルサイネージを設置し、住まい情報センターおよび大阪くらしの今昔館をPR動画でアピールした。

○「年報」、「紀要・館報」などの発行

- ・住まい情報センター事業の一年間の取組内容を取りまとめた「年報」や、大阪くらしの今昔館の研究成果を取りまとめた「紀要・館報」を発行し、市民情報プラザや図書館に送付した。また、住まい情報センターに視察・ヒアリングに訪れる方に対しての情報提供にも活用した。

【発行部数】 「年報」：400部 「紀要・館報」：600部

○「キャラクター」を活用した広報

- ・セミナーや展示等のチラシ、ウェブサイトの各種コンテンツ、住情報プラザの各種コーナー等において、住まい情報センターのキャラクター「すまじょーくん」を活用し、親しみのある施設としてのPRに努めた。
- ・住まいのライブラリーのキャラクター「すまいまる」をライブラリーの周知に活用した。



「すまじょーくん」と「すまいまる」

② 広報事業におけるサービス向上・利用促進の取り組み

○認知経路を踏まえた広報の強化

- ・各セミナーにおけるアンケート調査の結果をみると、セミナー情報の入手方法としてインターネット（メルマガ、ウェブサイト）やチラシのほか、大阪市発行の広報紙によるものが多いことから、ウェブサイトや大阪市の広報部署に対し、情報発信を積極的に行った。

- ・大阪くらしの今昔館の各企画展については、近郊の住民への周知のため新聞広告やウェブサイトなどに掲載した。
- ・夏休み期間の子ども向けセミナーやイベント等については、市内の小学校に配布される広報紙に依頼するなど、ターゲットにあった広報に努めた。
- ・地元商店会と連携し、広報紙あんじゅやセミナーチラシ、リーフレットなどについて、商店街の掲示板を利用して配架・掲示し、情報発信を行った。

（４）ライブラリー事業

① 実施状況・実績

- ・「住まい」「建築」や「住むまち・大阪」をテーマに図書・雑誌・機関誌・市発行の資料・企業広報誌・地域情報誌・ビデオ・DVD等を収集、配架するほか、子どもコーナーには親子で楽しめる住まい・くらしの児童書を揃え、「ライブラリー利用規則」に基づき適切に運営を行った。（令和６年度購入冊数 243 冊（新聞、雑誌を除く））
- ・蔵書については、住まい情報センターに寄せられた相談内容の分析や利用者からの声、新聞等の紹介記事等も踏まえて図書の選定を行うとともに、図書管理システムにおいて適切に管理した。
- ・大阪市マンション管理支援機構との連携により、マンション管理関連図書を配架し、資料の充実を図った。
- ・相談事業でよく受ける相談内容や、普及・啓発事業で行っているセミナー、大阪くらしの今昔館で開催している企画展など、各事業の関連図書を企画図書としてテーマを設定して展示することで、多くの貸出利用があった。

○利用状況等

- ・入館者数：29,851 人（一日平均：98 人）
- ・新規登録者数：233 名
- ・図書貸し出し数：3,857 冊
- ・蔵書数（令和 7 年 3 月 31 日現在） 図書：12,954 冊 雑誌等：179 タイトル

種別	住まい 住環境	住文化 住教育	建築 都市	住むまち ・大阪	絵本・ 児童書	参考 図書	雑誌	機関誌	企業 広報誌	ミニコ ミ誌	ビデオ DVD
冊数	4,014	905	2,329	3,132	1,210	1,364	(56)	(54)	(18)	(51)	(266)

※（ ）雑誌等、ビデオはタイトル数を示す

○企画図書の展示

実施期間	企画図書テーマ
4月1日 ～ 4月30日	住まいを買う前に読みたい本
5月1日 ～ 6月30日	省エネ
7月1日 ～ 7月31日	重要事項説明と契約
8月1日 ～ 8月31日	住まいづくり
9月1日 ～ 9月30日	自然災害に備える
10月2日 ～ 10月31日	住まいの維持管理
11月1日 ～ 11月30日	住まいを借りる
12月1日 ～ 12月28日	住まいの維持管理・活用
1月4日 ～ 1月31日	税金について考える
2月1日 ～ 2月28日	老後の住まい
3月1日 ～ 4月11日	集合住宅

○ライブラリー関連イベントの開催実績

- ・ライブラリーの利用促進につなげるため、『大阪弁「ほんまもん」講座』をテーマ図書としたブックトークサロンを開催、当該図書の展示を行った。
- ・情報が古く配架しなくなった本を市民に提供するリサイクルブックフェアを開催した。初日の1月26日は参加を募集し、ホールで開催した。1月27日以降はライブラリー入口付近にて継続開催した。

リサイクルブックフェア 実施期間	利用者数	持ち帰り冊数
1月26日～2月28日	140	584

○ライブラリーボランティアの活動実績

令和7年3月末現在、50名が登録されており、主な活動として、図書の貸出・返却の受付、図書の配架、場内の書棚の整理、ライブラリー内の来館者案内を行った。

② ライブラリー事業におけるサービス向上・利用促進の取り組み

- ・セミナーの関連図書リストの配付や、大阪くらしの今昔館の企画展の関連図書リストの掲示・配布、ライブラリーでの企画図書展示など、センターにおける他事業と連携した一体的な運営により施設全体の利用促進につなげた。
- ・図書持ち帰り用紙袋の提供を実施した。

- ・ミュージアム図録コーナーや新着図書コーナー、「大阪ほんま本大賞（大阪の本屋と問屋が選んだ、ほんまに読んでほしい本）受賞作品」コーナー、「安藤忠雄」コーナー、「万博」コーナーを設置することで、大阪のまちの魅力を紹介した。
- ・ライブラリー内でのミニ展示として、「長屋の暮らし」・「建築家コーナー」や、セミナーや今昔館の企画展に関連した「老後の住まい」「徳川大坂城 400 年一城のかたち・まちの姿」、ブックトークサロン「やるやん！大阪弁～こんな所でも使ってもらえます～」などの関連図書を展示した。
- ・図書館総合展「こんなにあります！あなたも使える専門図書館 2024」公式サイト内特設ページ・オンライン展示に「住まいのライブラリー」を掲載した。

（５）ホール・研修室等の運営事業

① 実施概要・実績

- ・３階ホールと５階研修室は、住まい情報センター主催のイベントやセミナー等に使用し、それ以外の時間帯については、「ホール研修室の使用案内」に基づき一般使用についても広く受け付けた。
- ・建築関係団体などの住まい関連イベントに活用されているほか、研修やサークル活動などにも広く使用された。
- ・受付開始日に複数の申し込みがあった場合は公開抽選を行い、平等使用の確保に努めた。

○令和６年度のホール・研修室使用状況

貸室の種類	使用コマ数	使用可能コマ総数	平均使用率（％）
ホール	562	853	65.9
研修室	506	853	59.3

② ホール・研修室等運営事業におけるサービス向上・利用促進の取り組み

ホール及び研修室の利用率の向上のため引き続き次のとおり取り組みを実施した。

- ・ホール・研修室を終日使用する場合の使用料金割引
- ・附属設備の一部割引
- ・ホールと研修室（会議室）での飲食利用の受入れ（別途特別清掃料を徴収）
- ・ホール等の平面図や写真に加え、レイアウトや机・座席の配置のパターンをウェブサイトで紹介することで、多様な使用目的に対応できる施設であることをPR
- ・インターネットの貸室検索サイトを用いた情報発信

- ・来館者がスムーズに目的のイベントにたどり着けるよう、当日の催しをデジタルサイネージに表示してわかりやすく案内した。
- ・天神橋筋商店街の情報掲示板で「貸ホール・貸研修室」の周知
- ・イベント開催時の荷物等事前預りサービス、発送サービスを実施。
- ・貸室使用後に発生したごみを引取るサービスを行った。

(6) 展示事業

① 実施状況・実績

- ・令和6年度の入館者数は352,206人となった。コロナ禍を経て事業が平常化し、来館者数も回復してきた。特にインバウンドの来館者はアジア圏の方が着物体験や館内の写真撮影という体験ブームが落ち着き、より幅広い国の方々が来館され展示の解説ツールを利用して内容を理解される方向に変化している。
- ・これらのニーズに応え、常設展示の理解を深めるツールとして、来館者自身で楽しみながら学ぶことができるクイズ形式の「チャレンジオッター」日本語版（8・9階）、英語版（9階）を配布した。
- ・企画展は「住まいと暮らし」をキーワードに、所蔵品・寄託品の研究を進めた成果をもとに、大阪画壇の絵画作品、大阪の生活文化、都市文化や所蔵品を中心とする工芸品などを取り上げ、幅広い時代と多彩なテーマで展示を行った。
- ・高齢者大学や大阪市立学習センターなどの依頼に対応し、学芸員特別講座や出張講演を6回実施した。
- ・事業間連携として、シンポジウム「被災後の生活再建と住情報」の開催を実施した。

○入館者数（令和6年度）実績

(人)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
20,611	30,100	28,168	31,856	35,858	27,035	30,256	31,216	23,259	32,709	32,344	28,794	352,206

○入館者数の推移

(人)

年度	H 13(※)	H 14	H 15	H 16	H 17	H 18	H 19
入館者数	142,628	150,045	150,032	146,830	142,980	156,230	158,699
年度	H 20	H 21	H 22	H 23	H 24	H 25	H 26
入館者数	161,975	180,471	209,255	205,829	228,976	259,320	353,138

年度	H 27	H 28	H 29	H 30	R1	R2	R3
入館者数	522,240	576,217	587,364	621,296	414,959	51,533	60,628
年度	R4	R5	R6				
入館者数	192,279	345,696	352,206				

※平成 13 年 4 月 26 日開館

○常設展

- ・江戸時代の大坂の町を実物大で再現している 9 階常設展示室では、「商家の賑わい」の展示として、年中行事にあわせた季節のしつらいとして誓文払い、七夕飾り、月見飾り、正月飾り、節分、雛飾りを行った。また、収蔵品の絵屏風、掛軸についても町家の座敷で公開した。
- ・映像とジオラマで近代以降の大坂の都市空間と住まいを紹介している 8 階常設展示室では、昭和 30～40 年代の世相を反映した、「ガスアイロン」と「電気アイロン」を小ケース内に展示し、ガスと電気を比較するなど来館者が興味を持ちやすいテーマを紹介した。

展示替え	概 要
商家の賑い	4 月 1 日～7 日、9 月 7 日～3 月 31 日
夏祭りの飾り	4 月 13 日～9 月 1 日
季節のしつらい	七夕飾り : 7 月 5 日～7 日 月見飾り : 9 月 14 日～10 月 13 日 誓文払い : 11 月 16 日～12 月 1 日 正月飾り : 12 月 25 日～28 日、1 月 4 日～13 日 節分の飾り : 1 月 25 日～2 月 3 日 雛飾り : 2 月 22 日～3 月 30 日

○常設展示室等におけるイベント・ワークショップ

- ・「乙女文楽」「狂言」などの古典芸能や、「今昔館に初もうで」「今昔館のひな祭り」などの様々なイベントを延べ 21 日間開催した。
- ・「万華鏡」「折り紙」「つまみ細工」「水引飾り」などの物作りワークショップや「紙芝居」「反物着装」などの見て聞いて楽しむ催しを計 229 回開催した。

○企画展

- ・「住まいと暮らし」をキーワードに、多彩なテーマによる企画展示を 4 回開催した。

春夏秋冬・花鳥風月に遊ぶ

会期：4月20日（土）～6月23日（日） 開催日数 56 日

入館者数：15,554 人

- ・ 月岡雪鼎、佐藤魚大、西山完瑛、菅楯彦、五井金水など、近世から近代にかけての大阪画壇の作品を展示し、大阪の人々が愛好した春夏秋冬・花鳥風月の世界を示した。

レトロ・ロマン・モダン、乙女のくらし

会期：7月13日（土）～10月14日（月・祝） 開催日数 76 日

入館者数：31,365 人

- ・ 近代商業デザインの研究家である佐野弘明氏のコレクションを中心に、「レトロ・ロマン・モダン」と呼ばれる大正時代前後の化粧品や薬など生活雑貨のパッケージ、雑誌や商品広告などを展示し、当時の女性のくらしとそこにある美意識を探るものとした。

布のすがた—いまむかし

会期：（前期）10月23日（水）～12月8日（日）

（後期）12月11日（水）～令和7年2月2日（日） 開催日数 83 日

入館者数：28,556 人

- ・ 大阪芸術大学工芸学科テキスタイル・染織コース出身の現代の染織家の作品と大阪くらしの今昔館の収蔵品のコラボ展示を行った。

特別展 徳川大坂城 400 年—城のかたち・まちの姿—

会期：令和7年2月11日（火・祝）～4月6日（日） 開催日数 48 日

入館者数：19,136 人

- ・ 大坂夏の陣の後、豊臣期の大坂は徳川氏による城再築と城下の整備によって大きく姿を変え、現代大阪の基盤となりました。その大坂城再築から 400 年。徳川期大坂の城と町の姿を本丸御殿の詳細な復元模型と、建築図面と絵画資料で立体的に解き明かした。

○企画展関連の講演会等

- ・ 企画展では、関連イベントとして講演会やギャラリートーク、ワークショップを開催し、訪れた方に展示作品等の理解を深めていただけるよう工夫した。

講演会等の内容	実施日	参加人数
企画展「レトロ・ロマン・モダン、乙女のくらし」 関連講演会「レトロ・ロマン・モダンを語る」	9月16日	147人
企画展「布のすがた—いまむかし」関連講演会 「織物以前のこと、南太平洋のタパや装い」	11月24日	101人
企画展「布のすがた—いまむかし」ワークショップ 「カード織りでストラップ制作」	12月14日	15人
特別展「徳川大坂城 400年—城のかたち・まちの姿—」関連講演会「徳川大坂城の建築絵図／徳川大坂城の障壁画」	3月2日	158人

○資料収集・保管・修復

【購入】

- ・資料の購入にあたっては、住まいのミュージアム資料評価会議を設置し、資料の必要性、具体的な活用方法の評価や評価額の算定を行い、外部有識者の意見を聴取するなど幅広い観点から購入の妥当性について確認した。

- 具足図 森 一鳳 一幅
- 芋名月 五井 金水 一幅
- 農児観月之図 前川 文嶺 一幅
- 節季候 西山 芳園 一幅
- 蔬菜図 西山 完瑛 一幅
- 花乃浪華 渡辺 祥益 一七面
- お多福図扇面貼り交ぜ図（寄書） 長谷川 小信ほか 二曲一双
- うめの花平棗 神戸 雪汀 一合
- 写真浪花百景 長谷川 貞信筆 20枚
- 大阪新町 夕陽廓の賑 1枚
- 大坂登り 博覧会竹澤連 絵師：2代目 歌川 国輝 3枚続
- 大阪と博覧会 第五回内国勸業博覧会協纂會 1冊
- 第五回内国勸業博覧会明細図 東新 太郎著刊 1枚

【資料の保管】

- ・資料の保管にあたっては、材質等に応じた適切な環境を保つとともに、セキュリティ対策も徹底した。

【資料の貸出し】

重要文化財「中井家関係資料」の貸出

- ・春季特別展「寒雲亭ものがたり」今日庵 茶道資料館「今日庵ニ有之庭之図」 1点

○研究成果

大阪の住居史・建築史研究

- ・大阪の長屋に関する研究と資料収集を行った。

大阪の美術に関する研究

- ・大阪市内において個人蔵の大阪画壇及び工芸品について資料調査研究を継続的に行った。

大阪の生活文化に関する研究

- ・館蔵資料工芸品の調査・研究
- ・寄託品、廣野カツ嫁入り道具（着物）に関する調査
- ・古時計クラブとの協力で「時の記念日」にちなんだ展示（6月8日（土）から7月8日（月））とワークショップ（6月9日（日））・講演会（6月10日（月））の実施
- ・天満市場との地域連携活動として、天満市場地車研究会への参画

研究事業の報告・広報

- ・年4回情報誌『あんじゅ』（一部をミュージアム関連記事で掲載）
- ・研究紀要・館報22号の発行
- ・「第1回三ツ屋根地車フォーラム」を共催（天満市場地車研究会による地車調査報告会）

○アカデミックボードの設置

- ・今昔館にふさわしい新たな企画やプログラムの開発に貢献していただくことを目的として、各分野において研究業績・展示実績のある人材、学位・専門資格をもつ人材を学術委員として委嘱し、館長を補佐するボードを設置した。

○ボランティア「町家衆」の活動

- ・町家衆には、町家ツアー・ワンポイントガイド・町家衆イベント・ワークショップなどの実施や、今昔館が主催する数々のイベント運営にご協力いただいた。
- ・小学3年生を対象とした「体験学習」にご協力いただいた。（40日間、66回）
- ・建築系大学などの学生を対象に伝統木造軸組み模型を用いた「建築プログラム」を担う希望者を募集し、4階の練習会ののちに実施した。（16回）
- ・新規ボランティアを募集する説明会を開催し、20名が参加、14名が新規ボランティアとして登録された。
- ・6月～9月にかけて、町家ツアー案内人としての活動を希望する方を対象に養成講座を実施し、新たに9名がツアー案内人として認定された。

- ・ボランティア主催イベントとして「昔のくらし謎解き探検隊（7月29日）」「のぞきからくり（8月4日）」「真夏の今昔館は怖い 涼の一日（8月18日）」「春のやよいの今昔館（3月20日）」を開催した。

町家ツアー案内人養成講座の開催

練習会 6月28日（金）、7月6日（土）、7月25日（木）、8月10日（土）
 認定会 8月30日（金）、9月14日（土）
 町家ツアー案内人新規認定者9名

ボランティア向け講座の開催

第1回目 6月12日（水） 15時～16時30分
 「文化財としての町並みー私の調査歴からー」 講師：館長 増井正哉
 第2回目 8月1日（木） 15時～16時30分
 「都市祭礼と町並みの演出ー私の調査歴からー」 講師：館長 増井正哉
 第3回目 10月7日（月） 15時～16時30分
 「江戸時代の町家～長屋のくらしを中心に」 講師：学芸員 深田智恵子
 第4回目 12月7日（土） 10時～11時30分
 「文様を紐解くー片輪車文ー」 講師：学芸員 上田祥悟

新規ボランティア募集説明会

「今昔館についての説明」 増井館長
 2月19日（水）、2月23日（日）
 「今昔館でのボランティア活動について」 西明子氏（町家衆）
 3月12日（水）、3月30日（日）
 （既存登録201名、新規登録予定者14名／令和7年3月31日現在）

○児童、学生等を対象にした学習支援

- ・小学3年生を対象に、昔の暮らしの生活体験学習を実施した。
- ・黒電話や手回し洗濯機など教科書で書かれている道具を紹介するとともに、実演を多用し、博物館で実物を見る良さを感じられるように配慮した。解説・実演補助は町家衆が対応した。
- ・大阪市内・市外の小学校256校、14,573人の児童が今昔館を訪れた。そのうち体験学習には3年生を中心に86校、4,194人の児童が参加した。
- ・大学生を対象とした博物館実習を実施し、受講を希望した6校の学生6名を受け入れた。

- ・大学の建築学科の授業（実測）を受け入れた。（1校7名）
- ・新任教員研修を受け入れた。（2日間2名）

② 展示事業におけるサービス向上・利用促進の取り組み

○今昔館の認知度向上のための広報活動等

- ・メディア対応
企画展の内容を中心に各メディアへ情報を発信した。
〈令和6年度取材実績〉 計107件
 - 新聞 18件
 - テレビ・ラジオ 8件
 - 情報誌・雑誌・コミュニティー誌等 33件
 - ウェブサイト等 43件
 - その他 5件
 - 市関係広報媒体等 随時
 - 美術館・イベント情報媒体等 随時
- ・企画展等への集客を図るため、Osaka Metro42 への企画展のポスター掲示を実施したほか、新聞に広告15件、大阪市内全小学生向け新聞情報紙に1件広告を掲載し、近郊の住民の方々や小学生とその保護者等へ向けて周知した。企画展「レトロ・ロマン・モダン、乙女のくらし」では展示解説動画の作成や、新たな試みとして漫画によるレポート形式でSNSを活用して周知した。また、今昔館への集客のため歴史系専門誌に3回、訪日外国人向け冊子に6回広告を掲載した。

○多言語対応の取り組み等

- ・8階、9階常設展示の解説はQRコードを用いて日本語・英語・中国語（繁体字・簡体字）・韓国語の4か国語で対応しており、スマートフォン（電子媒体）を活用した展示紹介を行った。
- ・インフォメーション、ロッカー、休憩コーナー等の館内案内は日本語・英語・中国語（繁体字・簡体字）・韓国語の4か国語表記とするとともにピクトグラムを用いた。
- ・来館者に配布するリーフレットについては日本語・英語・中国語（繁体字・簡体字）・韓国語・スペイン語・フランス語の6か国語を用意している。「商家の賑わい」「夏祭りの飾り」の2つのバージョンを作成し、展示内容や展示位置がわかるようマップ及びQRコード解説の画像を掲載した。
- ・9階常設展示室風呂屋シアターでは、桂米朝と桂米團治の掛け合いで9階展示を紹介するコンテンツを上映。8階常設展示室で上映している「住まいの大阪六景模型」・

「住まい劇場」に日本語・英語・中国語（繁体字・簡体字）韓国語の字幕を入れ、多言語対応をした。

○展示設備等の更新

10 階

- ・常設展示ガラス低反射フィルム貼付
- ・展望フロア演出用 PLC 更新

8 階

- ・企画展示室壁付ケースのガラス更新
- ・住まい劇場制御機器更新
- ・ルナパーク展示アンプ更新
- ・心斎橋展示モーター更新
- ・ロトンダ、からくり錦絵、天神祭、心斎橋筋商店街、ルナパーク演出用 PLC 更新

○ミュージアムショップ

- ・6月1日（土）に新しくオープンした。

○電子チケット、キャッシュレス決済の環境整備

- ・海外からの観光客も含めたチケット購入のスムーズな支払いを可能とするためインターネットでの電子チケット購入及びキャッシュレス決済の環境を整備した。
（クレジットカード、電子マネー、QRコード、アソビュー、大阪周遊パス、大阪観光局楽遊パス・パスケット、ソノリゴ、JTRWEB など）

○地域魅力の発信に向けた取り組み

- ・大阪都市魅力創造戦略 2025 の施策項目のひとつ「大阪の強みを生かした魅力創出・発信」の取り組みとして、天満・天神橋地域との一層の連携強化を目的として締結した天神橋筋商店会との包括連携協定に基づき、商店会との協力体制を強化しつつ、地域の都市魅力資源を活かした取り組みを継続した。
- ・天神橋筋商店会と協力し、今昔館の入館券を提示すると、商店街内にある一部の店舗で割引を受けられるサービスを引き続き実施した。
- ・9階常設展示室では、今と昔の祭の様子や、かつて天神祭に曳きだされた船形山車「天神丸」、船渡御を迎えるお迎え船に飾られた「御迎え人形」など天神祭り関連の展示を実施し、地域魅力の情報発信に努めた。
- ・天神祭期間中は地域各地の御迎え人形の展示施設を巡るスタンプラリーに協力した。
また、祭当日、天満宮天神講を始めとする地元組織の協力で、館内で来館者に大阪獅

子舞や傘踊り、大阪締めを披露してもらい、地域と連携して様々な地域魅力の発信に努めた。

- ・天満天神繁昌亭や上方落語協会に協力いただき、第19回子ども落語大会を開催した。今昔館での審査会を経て、入賞者が繁昌亭の舞台上で観客を前にその芸をお披露目し、商店街を介してつながる両施設の連携を活かした地域の魅力を発信した。
- ・天神橋筋商店会主催の阿波踊りイベントの行進コースに加わり、常設展示室で来館者と共に踊りを繰り広げ、「日本の祭り文化」の魅力を発信した。
- ・天満天神繁昌亭とのコラボレーション企画として、昨年度に開始した「チケ得」（相互施設のチケット半券を掲示することで割引を受けられるサービス）を引き続き実施した。

○外部団体との連携

- ・大阪教育大学の「コラボレーション演習」に協力し、6名の学生を受け入れ、デザインを工夫した町家衆イベントの外国語対応掲示物を作成するなどを行った。
- ・「生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪（イケフェス大阪2024）」10月26日、27日実施のイベントに参加し、9階常設展示室において、カンナ削り体験や町家2階の一般開放といった、展示を通じて木造建築について学べる催しを実施した。
- ・日本建築学会と連携して、「2024年度 建築設計展 第65回全国大学・高専卒業設計展示会」を企画展示室にて開催し、全国の大学及び高等専門学校の卒業設計優秀作を展示した。（会期：7月5日（金）～7月7日（日）開催日数3日 入館者数：618人 無料）
- ・大阪府登録文化財所有者の会が企画する「たてもの御財印めぐり」に参画し、大阪府下の登録文化財と建築文化の普及に協力した。
- ・大阪市、文楽を中心とした古典芸能振興事業実行委員会主催の「ええんちゃう！文楽（12月21日）」を9階常設展示室において実施した。（観覧者数：114人）
- ・包括連携協定に基づく共催事業として、大阪ガスネットワーク（株）エネルギー文化・研究所（CEL）と共催で3月9日（日）に「おでかけ今昔館～豊臣大坂城下町への旅」を行った。

（7）住まい・まちづくりネットワーク事業

① 実施状況・実績

- ・住まい・まちづくりにさまざまな形で取り組むNPOや専門家団体等と連携・協働し、大阪の居住地としての魅力を高め、その情報を発信するため、「住まい・まちづくりネットワーク」（住むまち大阪スタイル人）を設置した。

- ・住情報プラザ内では、住むまち大阪スタイル人等と連携し、団体紹介のパネル展や、各団体の行うイベント案内等の設置など、スタイル人の活動を広報した。
- ・センターとまちづくり団体等が連携して、幅広い住まいづくりの情報提供と大阪の文化や魅力を伝えるためのセミナーやイベント、まち歩きなどを行う「タイアップ事業」として、「チャレンジタイアップ事業」と「タイアップ+plus(プラス)事業」を実施した。

○チャレンジタイアップ事業・タイアップ+plus（プラス）事業実績

チャレンジタイアップ事業として選定され・事業を実施した団体数／応募団体数	5 団体／ 5 団体
タイアップ+plus（プラス）事業	8 団体（13 事業実施）

- ・事業実施後の参加団体へのアンケートでは、タイアップ事業についての各団体の満足度は 100%であった。また、参加者へのアンケートにおける主な意見としては以下のものがあった。

【チャレンジタイアップ事業】

〔インテリアと防災を考える～防災ファブリックパネルをつくろう～〕

- ・具体的にすべきことが見えたのが良かった。生き残る、という視点が足りないことがわかり良かった。

【タイアップ+plus（プラス）事業】

〔相談事例から考える居住支援が描く未来～今住んでいる家を明日退去しなければいけなくなったら、あなたはどうしますか？～〕

- ・単に建物を斡旋するだけでなく、それに至るまで、背景、過程、その後の話まで聞けて大変興味深かった。
- ・事業実施後には、住まい情報センターの SNS にセミナー報告を掲載するとともに、年間の事業報告としてタイアップ事業報告書を作成し、チャレンジタイアップ事業の企画提案募集のための PR ツールとして区役所及び図書館に配架し、タイアップ事業応募団体の新たな開拓にもつなげた。

○出前講座の実施

- ・タイアップ+plus（プラス）事業者の協力により、希望される地域にお伺いして、住まいや暮らしに役立つ講座を開催する出前講座を実施した。
- ・幅広い層の方に受講していただけるよう、大阪市社会福祉協議会や大阪市子ども・子育てプラザ等に対して積極的に広報活動を行った。

協力団体数	プログラム数※	実施回数	参加者数
8 団体	12 種類	5 回	120 人

※1 つの団体で複数ご協力いただいたプログラムを含む。

3. 利用者モニタリング等の実施状況

(1) 利用者モニタリングの実施概要

事業の実行や業務改善を実施していく過程を、指定管理者自身で適切に検証していくことが重要であるため、次のとおり業務に関するモニタリングに取り組んだ。

○事業企画会議の設置と開催

- ・各事業の新たな視点による事業展開の検討などを行うため、外部の学識経験者を交えた「大阪市立住まい情報センター事業企画会議」を設置し、会議を8回開催した。
- ・各事業の進捗状況や実績の推移等を確認し、センターの運営全般に関する様々な視点からの意見・提案をいただき、業務改善に繋げた。

○調整会議の設置と開催

- ・各事業の実施状況の点検・評価や、業務の効率的な運営を行うため、「指定管理調整会議」を設置し、12回開催した。
- ・各事業の進捗状況や実績の推移等を確認し、事業計画書や年度協定書等の内容を確実に実施できているかどうかについて、点検・評価を行い業務改善に繋げた。

○大阪市立住まいのミュージアム運営協議会の開催

- ・住まいのミュージアムの運営にあたって、博物館（展示・調査研究）の分野をはじめ、教育やメディアなど、多様な分野の学識経験者等の専門家で構成する住まいのミュージアム協議会を令和7年3月に開催した。外部有識者からは、運営の評価や研究活動に対する助言等今後のミュージアム運営について貴重な意見をいただいた。

○「業務チェックシート」による自己点検・自己評価

- ・施設の管理運営状況や事業計画の実施状況、施設の有効利用等について、「業務チェックシート」を作成し、業務全般に関する自己点検・自己評価を毎月行った。

○相談事業データの分析と活用

- ・一般相談や専門家相談の個々の内容は、年代など相談者の属性と合わせて相談システムに入力し、全データを分析することにより、相談・情報提供の傾向を把握している。
- ・セミナーや企画図書のテーマ選定や広報紙「あんじゅ」の特集記事への反映など、普及・啓発事業、広報事業、ライブラリー事業、住まい・まちづくりネットワーク事業に活用した。

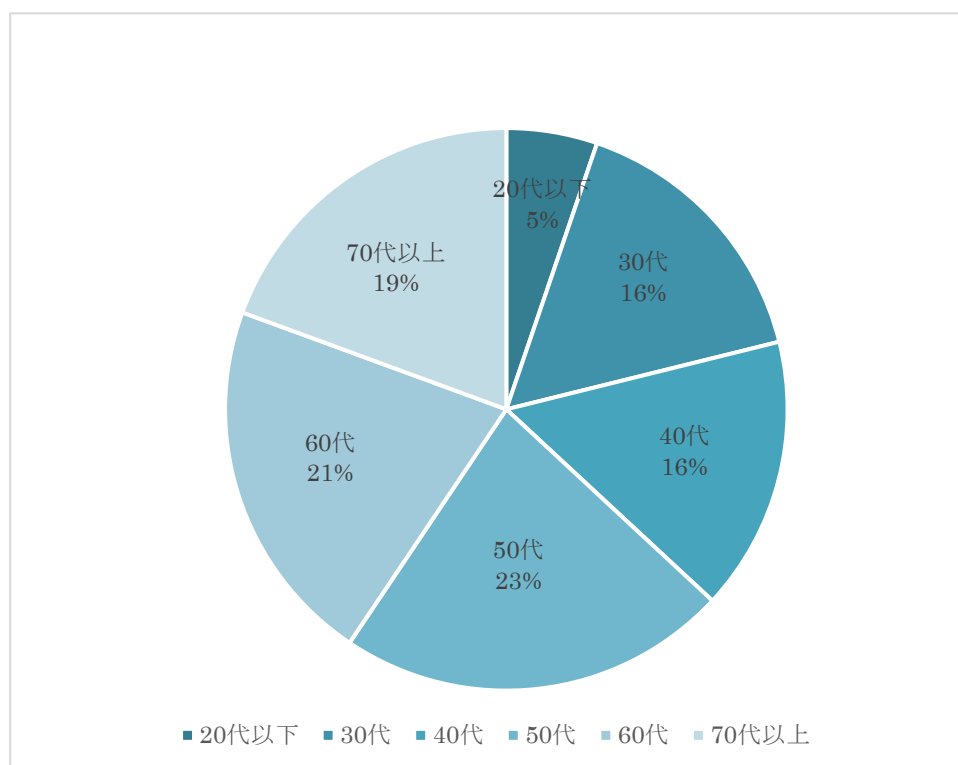
(2) 施設利用者満足度

相談対応時や、各種セミナー、ホール・研修室、大阪くらしの今昔館においてアンケートを実施し、利用者からの意見・感想等をお聞きした。これらの調査結果については組織内で共有し、センターの運営にあたって業務改善の参考とした。

《相談》

- ・利用者は50歳代がトップで23%、次いで60歳代が21%、70歳代以上が19%、40歳代、30歳代がそれぞれ16%、20歳代以下は5%であった。

【住まいの一般相談利用者の年代別構成比】



【主な意見（抜粋）】

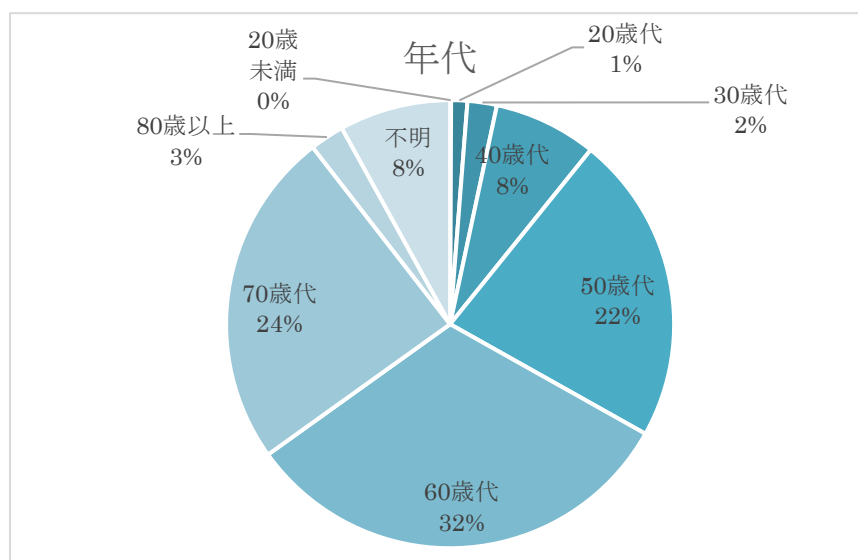
- ・ここの相談員はみんな冷静に話を聴いてくれる。こんなに冷静に話を聴いてて、言いたいことをくみ取ってくれた窓口は初めてだ。感動している。これまで大変だった。これでメンタルがだいぶ落ち着いた。本当にありがとうございます。
- ・2年かけてこちらのセミナーは全て受講し、一般相談を受け、専門家相談（資金計画）を受け、フル活用させて頂き、現在、住宅購入へと進めています。ありがとうございました。
- ・3歳の子どもが夏頃に住教育ワークショップコーナーでおうちづくり体験をして、その時の作品は今も自宅に飾っている。とても楽しかったようだ。また、その経験から家を意識するようになったらしく、自宅の窓を拭いてくれるようになった。おうちづくりがきっかけで窓の意識するようになったのだと思う。いい効果があった。

- ・一般的な注意点やさまざまな資料を提供していただき、ライブラリーで書籍も紹介してもらえたので、今後またゆっくり勉強しようと思います。ありがとうございました。

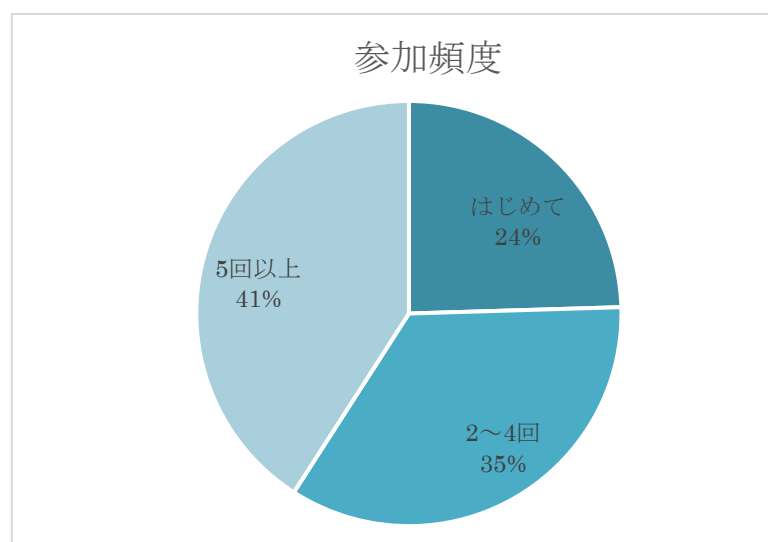
《セミナー・シンポジウム等》

- ・セミナー・シンポジウム等の参加者は、60歳代以上のシニア世代が半数以上を占め、次いで50歳代、40歳代の順に多かった。
- ・参加頻度については、「2回以上参加したことがある」が76%と多く、リピーターが多いことがわかった。
- ・さらに、満足度については「大変参考になった」「参考になった」が98%と高い評価をいただいた。

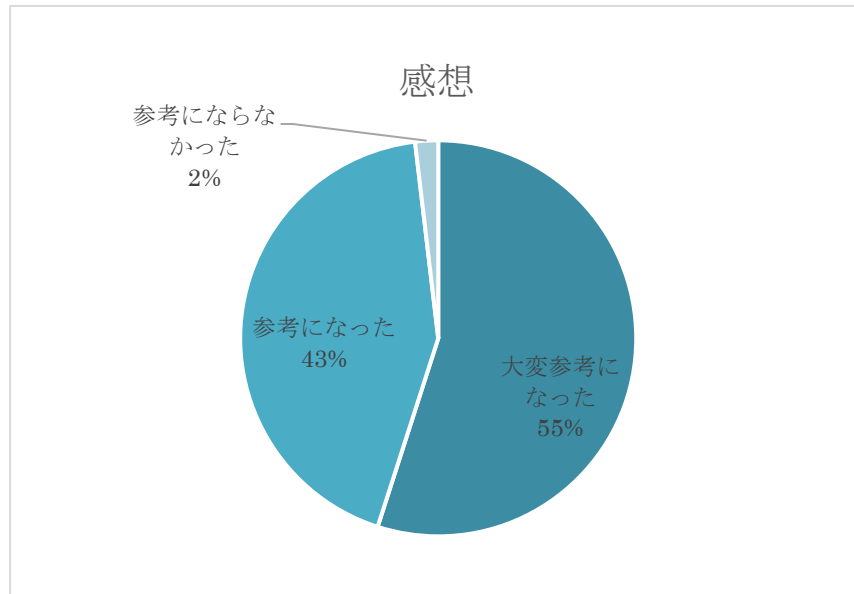
【回答者の年代別構成比】



【回答者の参加頻度】



【回答者の満足度】

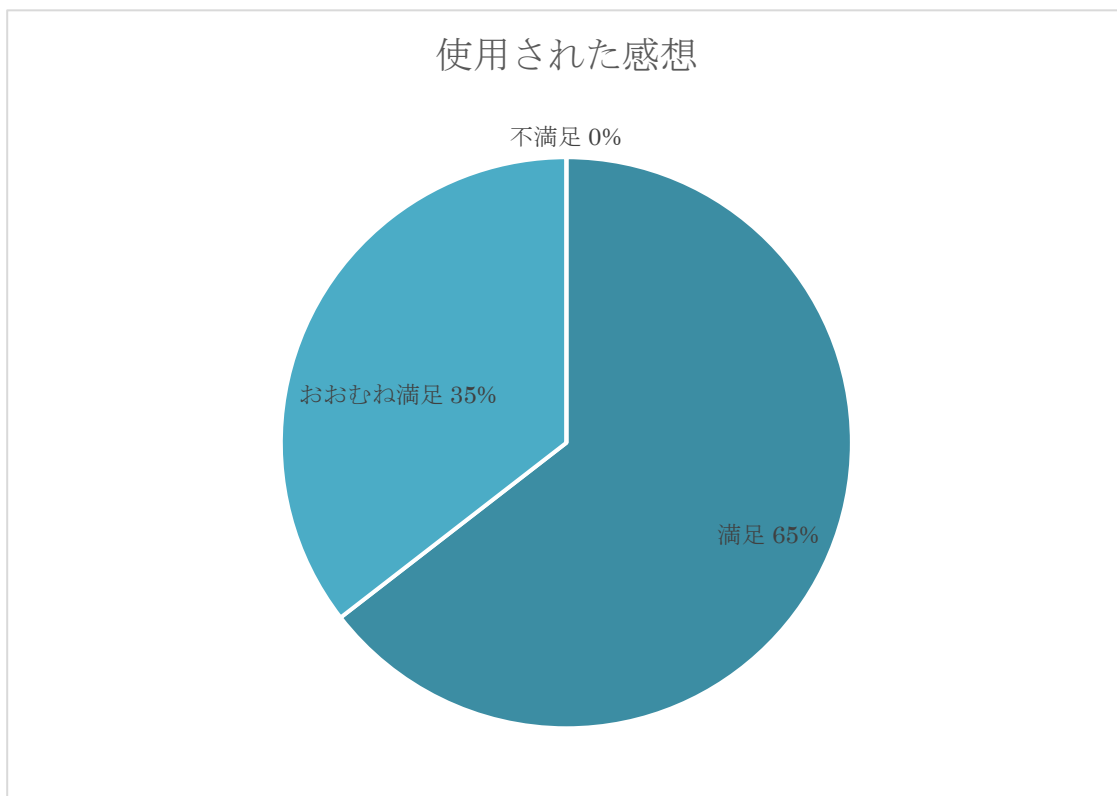
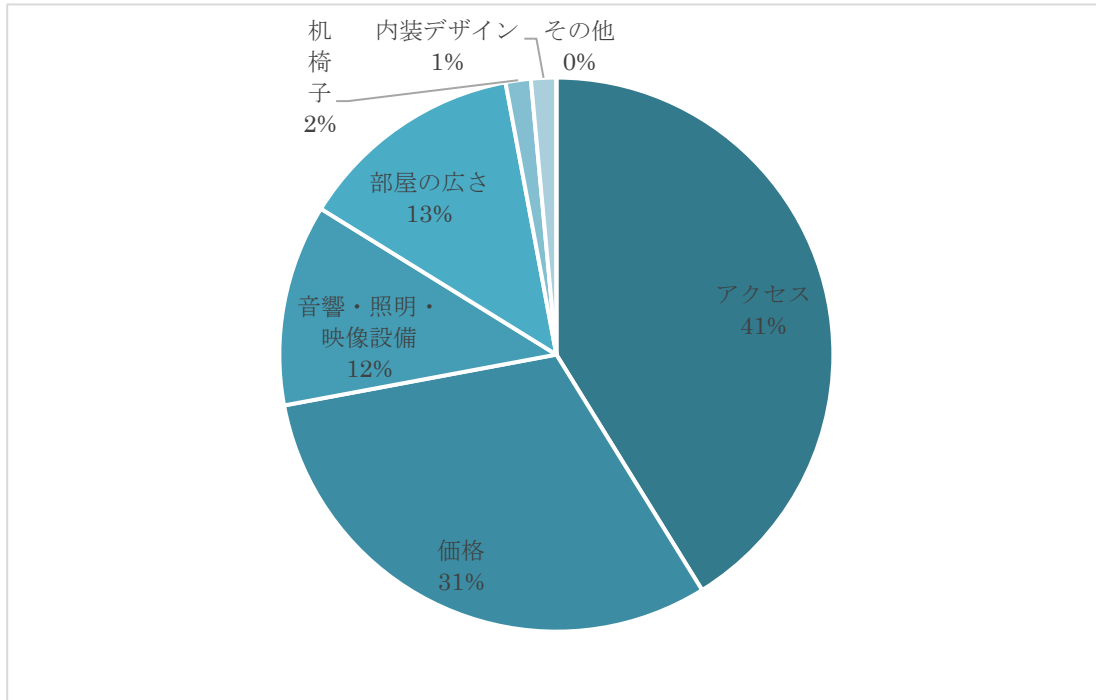


【主な意見（抜粋）】

- ・リフォームするのにいろいろな補助制度があるのを知りました。／チャレンジタイアップ事業「もう迷わないリフォーム事業者選び～住宅の省エネリフォームと耐震～」より
- ・妖怪が可愛らしく興味が持てました。／タイアップ+plus 事業「妖怪マンションへようこそ！お家の中で起こる事故やケガから身を守ろう」より
- ・地域の方々との防災訓練や避難所運営訓練などにおいて、地域の力をどう活かしていくのか。菅野先生の基調講演を聞き、改めて考えていきたい。／シンポジウム「被災後の生活再建と住情報」より
- ・単に建物を斡旋するだけでなく、それに至るまで、背景、過程、その後の話まで聞けて大変興味深かった。／タイアップ+plus 事業「相談事例から考える居住支援が描く未来～今住んでいる家を明日退去しなければいけなくなったら、あなたはどうしますか？～」より
- ・建物の再開発に向けての先駆的な心意気が印象に残りました。／ハウジングデザイン賞関連イベント「第37回大阪市ハウジングデザイン賞『受賞住宅見学会』①Brillia Tower 堂島」より
- ・昔ながらの瓦の家を見ることができ素晴らしかったです。内装も木がたくさんで気持ちの良い家でした。／ハウジングデザイン賞関連イベント「第37回大阪市ハウジングデザイン賞『受賞住宅見学会』②カーサ・リベラ -彫刻のある家」より

《ホール・研修室》

- ・「アクセス」、「価格設定」、「音響・照明・映像設備」「部屋の広さ」を選ぶポイントとして挙げる声が多かった。
- ・「スタッフの接客対応」では満足したという声を多くいただいた。



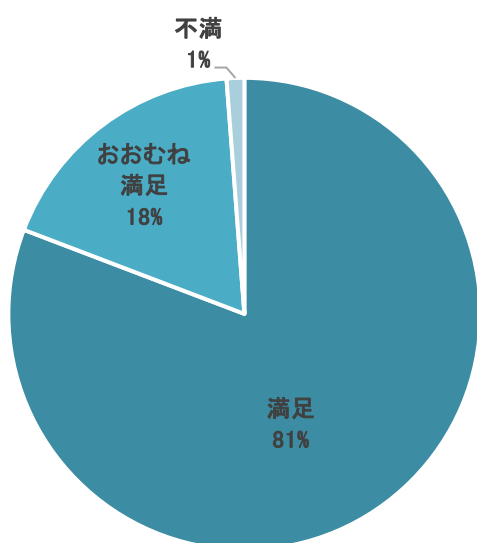
【主な意見（抜粋）】

- ・案内と会議室の説明が丁寧でした。
- ・是非また利用したいです。
- ・もう少し安価な方が利用しやすいです。下見の時から丁寧に対応いただきました。

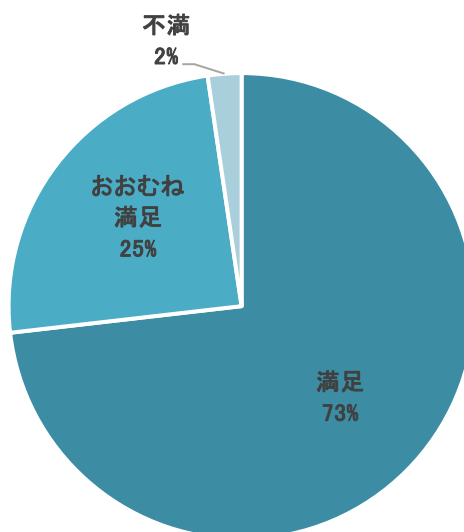
《大阪くらしの今昔館》

- ・今昔館全体や展示、イベント内容ともに「満足」「おおむね満足」がいずれも90%を超える高い評価を得た。

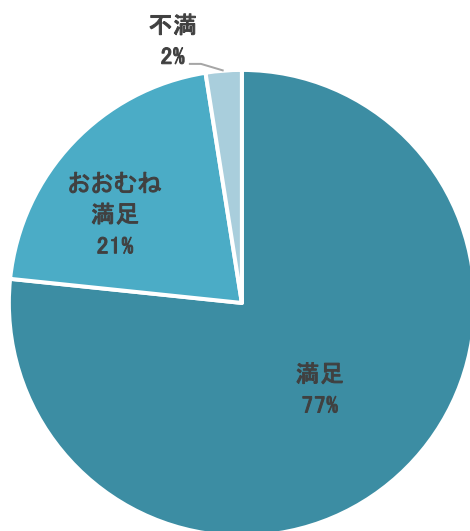
【大阪くらしの今昔館全体の満足度】



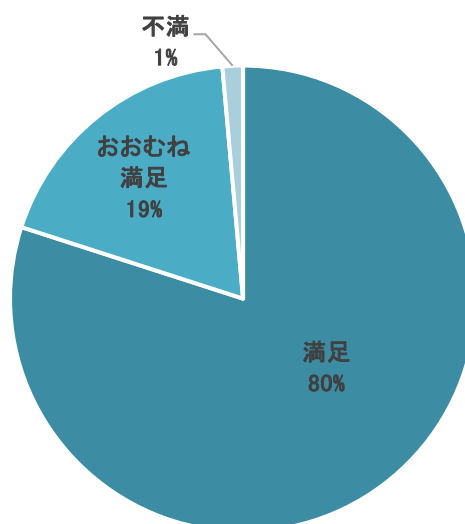
【イベントの満足度】



【展示内容の満足度】



【スタッフ対応の満足度】



【主な意見（抜粋）】

- ・学校で来て面白くてもっと見たかったので来ました。特にルナパークが楽しそうで良かったです。からくりもすごかったです。できればおもちゃ屋で説明を書いてくれたらうれしいです。またきます。
- ・Really enjoy it! All the member of 今昔館 is so nice! Thank you so much♡
- ・こういった施設に市税が使われる事に大賛成である。
- ・自分が生まれる前の時代にタイムスリップしたような気持ちにさせてくれる今昔館大好きです。定期的に来るのでつぶれないでください！！
- ・案内人の方がとても分かりやすく丁寧にガイドしてくれて、一人で見たら気づかないようなことも今日をきっかけ知れたのがとても有意義な時間だった。
- ・パンフやチラシをきれいな状態で持ち帰りたいので、クリアファイルを売店で売られたら良いと思います。
- ・映像は外国人のために字幕があったのはとても良かったと思います。また機会があったら、友達か家族を連れてきたいと思っています。
- ・小1、小4、おばあちゃんと来ました。昔懐かしい思い出と初めて見る子供とで、とても盛り上がり、楽しかったです。
- ・展示室内に「いす」があればありがたいです。
- ・残念なのは、ミュージアムショップ。外国人向けに京都や浅草などどこにでも売っている雑貨ばかりで、オリジナリティがない。
- ・米朝さんの語りで大阪の紹介や昔の家の展示など・・・昔は良かった～不便だけどあたたかい！！
- ・電子チケットを購入してもチケットカウンターに並ばないといけないのが意味不明です。システムを変更してほしいです。

4. 自主事業

住まい情報センターの設置目的に寄与する充実したサービスを利用者に提供するため、自主事業を実施した。原則有料でのサービス提供により、自主事業実施のための財源を確保した。

令和6年度自主事業

	タイトル	内容	実績
広報事業	広報誌「あんじゅ」の広告掲載	広報誌「あんじゅ」に広告を募集し掲載しました。	1枠
	ホームページのバナー広告掲載	ホームページにバナー広告を募集し掲載。	1枠×6か月
	パンフレットラックの広告掲載	ホール等に設置したパンフレットラックを活用し、広告やチラシ等を募集し掲載しました。	@1,000円×0回 @2,000円×3回 @3,000円×0回
貸室事業	ホール・研修室での飲食対応	ホール・研修室使用時での飲食を希望される利用者にも、特別清掃料をいただき対応しました。	20件
展示事業	ロケーションフォト	新郎新婦の衣装が和装であることを条件に9階展示室で結婚記念写真を撮影していただくサービスを実施。	0回
	着物体験	近世展示室において着物姿で江戸時代のまちを散策することができる着物着付けサービスを提供しました。(R5.5.17から)	34,186人
	ものづくり体験ワークショップ	木版画・折り紙・つまみ細工・ハンカチ染め等のワークショップを実施しました。	通年
	春のやよいの今昔館(いまむかし)	ボランティア主催イベントとして、パフォーマンスの披露や手作り小物の物販を実施。	1回
	博物館実習の受入	博物館学を履修している大学生の実習生を受け入れました。	6人
	展示室のロケ撮影への貸出(映像撮影)	映画やテレビドラマ等の映像撮影に展示室を貸出しました。	0回
	図録販売・リーフレット等刊行物販売	図録やリーフレット等の、施設に関連する刊行物を販売しました。	適宜
	年間パスポート販売	年間を通じて常設展に入場できるパスポートを販売しました。	33枚
	スーツケース等置き場の利用料	大型スーツケース専用置場を貸出しました。	662個
	学芸員特別講座	企業等が開催する歴史・文化講座への講師派遣の要請に応じて、当館展示や収蔵品に関連した講座を提供しました。	6回
	建築プログラム(匠の技を体験)	建築・デザイン系の学生を対象に、軸組み模型を使ったり、実物の小屋組みを見ながら日本の伝統建築技術を学習する建築プログラムを実施。	16回
	ミュージアム所蔵品画像貸出	ミュージアム所蔵品画像の制作・貸出を実施しました。	19件
	旅行会社と連携し天満・天神地域の魅力発信と集客	旅行者が主催する文化観光スポットや歴史を紹介する講座に協力しミュージアムや天満・天神地域を広く周知する。	0回
その他	自動販売機の設置	自動販売機を3階・4階・5階・8階の各フロアに設置しました。	通年
	ミュージアムショップ	8階にミュージアムショップを設置し入館者に販売しました。	R6.6.1～R7.3.31
	コピーサービス	4階にコピー機を設置し、来館者の利用に供しました。	通年

5. 収支決算状況

令和6年度 大阪市立住まい情報センター管理運営業務収支報告書

1. 収入 (単位：円)

項目	(R6計画)	(R6決算)
1. 利用料金収入	205,139,000	123,784,819
2. 自主事業収入	39,618,000	42,528,580
計 (A)	244,757,000	166,313,399

2. 業務代行料

項目	(R6計画)	(R6決算)
業務代行料	321,562,000	321,562,000
計 (B)	321,562,000	321,562,000
収入合計 (A)+(B)	566,319,000	487,875,399

3. 支出

項目	(R6計画)	(R6決算)
1. 人件費	250,698,000	234,922,876
2. 事務費	11,762,000	11,359,023
3. 維持管理費	123,845,000	82,330,850
4. 事業費	76,613,146	95,827,082
A 相談事業	4,727,420	4,022,269
B 普及・啓発事業	4,710,954	1,932,278
C 広報事業	13,766,400	11,439,080
D ライブラリー事業	1,946,877	1,653,265
E ホール・研修室等運営事業	1,219,185	202,671
F 展示事業	40,744,810	70,911,602
G 住まい・まちづくりネットワーク事業	3,497,500	865,917
H 万博	6,000,000	4,800,000
5. 共通経費等（自主事業分も含む）	49,216,000	48,222,852
6. その他（自主事業等）	27,806,000	20,497,815
7. 租税公課	26,379,000	25,462,449
計 (C)	566,319,000	518,622,947

4. 利益

計 (D) = 計 (A)+計 (B)-計 (C)	△ 30,747,548
---------------------------	--------------

上記のとおり報告します。